

2013年

携帯サイトへGo!→  
携帯で教室便りが見られます



公文式本市場教室 火・木 3~7時 TEL 186-61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3~7時 TEL 61-8891(福島方)

指導者: 新妻ゆき子 携帯090-2260-0671

Eメール:yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス:yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索

ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

## 教室だより 4月号

### だれでも勉強が好きになる

4月5日頃は二十四節気の一つ「清明（せいめい）」です。「陽気がよくなり、草木が次第に生長して、生い茂る頃」を意味します。生徒の皆さんも、進学・進級し、すがすがしい気持ちでいらっしゃることと思います。

お子さまが新しい学校、新しい学年になって保護者の皆さまがまず願うことは、「新しい学校を、新しいクラスを好きになってもらいたい」ということではないでしょうか。好きになれば毎日明るく元気に過ごせるからです。実は勉強も同じで、まずは「勉強が好きになる」ことが大切です。勉強が好きになれば、その教科の学習に明るく積極的に接することができるのです。世間の常識では、勉強はつらいものと考えられているようですが、それは「自分の実力よりも高いレベルの勉強をさせられ苦痛」だったり、「低いレベルの勉強ばかりでつまらない」ことに原因があるのです。公文式は一人ひとりの子どもの実力に合った「ちょうどの内容」を学習することで、勉強が「好き」「楽しい」の気持ちを維持していきたいと考えています。

## 公文式の創始者・公文 公（くもん とおる）先生の言葉より

### のびのび育てるためにこそ、早くからの知的な働きかけを

世間では「乳幼児期は情操教育こそが大切。子どもはのびのび育てたい。入学までに自分の名前が読めて書ければよい」と言う人がいます。私も、乳幼児期のみに限らず、子どもにはのびのびと育てほしいと願っています。

だからこそ早くからの“知的教育”が大切であると強調したいのです。

たとえば、親は子どもが生まれたときからくり返し語りかけます。すると4、5歳までに母国語をかなり話せるようになります。これはほとんど無意識的に行われる教育であり、子どもの側から見れば学習です。それほど学習能力が、生まれたときからそなわっているということです。ここで大切なのは、子どもにとって「楽しい、おもしろい」ことでなければいけないということです。「何を教えよう」ではなく、子どもが「何をやりたがっているのか」をしっかり観察してやり方を示し、順序づけをしてあげればよいのです。

乳幼児は、目が覚めている間じゅう、いつも何かをしたがっています。何かをすることが喜びなのです。そして能力とは、その喜びをくり返し味わっていく中からのびのびと育っていくものなのです。

## 2013年 4月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

本市場教室日□

横割教室日△

今月の「よむね」

文武両道

学問とスポーツの両方のこと。学問とスポーツの両方がすぐれていること。

「お兄ちゃんは勉強ができる上スポーツも万能で、まさに文武両道だ。」

「あの高校は、文武両道を教育の目標にしているそ  
うだ。」

くもん出版刊「ことわざカード」より

## 【第25回】公文式学習法

### 1. 可能性を信じ、長い目で見守る

親としてできるのは、子どもの可能性の芽をつむことなく、その芽を大切に伸ばすこと。そして今どの教材を学習していても「必ず伸びる」と可能性を信じて接することではないでしょうか。

「今は種まき、水やりの時期と思っている」(小3)、「努力家だが天才型ではないわが子。人が1回でわかるところも2、3回必要。だから努力をオーバーにはめる。合言葉は『〇〇(名前)はできる!できないのはできるまでやらないからだ』」(小4)、「3教科を学習すると子どもたちの個性が見える。好きなものは伸ばし、得意じゃないものはフォローできる。チャンスを与えないのは親の怠慢。まずやってみることが大事」(小5) 基礎学力や学習習慣は、一朝一夕で身につくものではありません。将来を見すえ、長い目で見守る親の姿勢が必要です。

### 2. 『規則正しい生活を送る』

子どもを伸ばす家庭生活の基本は、やはり規則正しい生活です。「何はさておき、早寝早起き朝ご飯!」(小3)、「見たいテレビ番組を優先させてしまうと、決まった時間に公文タイムがとれないので、録画して学習後に家族で見るようにしている」(小5)、「1日のスケジュールを立て、時間を決めて取り組むようにすすめている」(小5)、「早め早めに行動できるよう、家中の時計を15分進めている」(小6・小4)、「夜9時には必ず就寝するようにしている」(小6) 十分な睡眠、適度な運動、バランスのよい食事を取り、身体と心のコンディションを整えること。そうした生活の基盤が安定してこそ、公文の学習もスムーズに生活の中に取り入れることができ、毎日学習する習慣が身についていきます。

### 3. 「自立」という子育ての軸をもつ

多くの家庭に共通している親の目標は「自立した人に育てること」。

子どもたちに確かな学力をつけてあげて、たくさんの選択肢の中から自分の人生を選び取り、自立して歩んでほしいと願って、日々の学習を支えています。とはいえ親として、公文で学年を越えた内容を学習していく過程においては「こんなにたいへんなことをさせていいのかわかぬ」と悩むこともあるかもしれません。

ある最終教材修了生の親は「親は自分の経験だけでわが子を見てしまいがちなので、泣きながら高校相当のプリントを解く姿に『限界なのでは?』と感じた時期もありました。でも親が何も言わなくても子ども自身が次々と壁を乗り越えていく様子に『限界なんてないんだ』とわかり、気持ちが楽になりました」(小6)と、親のほうが大きく成長できたと話します

#### \*ゆき子の一言コラム

#### 子どもをよく見て興味の芽を育てている

大人が無理に引っぱったり、教え込んだりするより、子どもの興味や関心に合わせるほうが結果としてよく伸びるものです。学年を越えた内容を学習している子どもの家庭では、わが子が何に興味をもっているか、日頃から関心をもっているようです。「興味をもったらすぐ対応。『百人一首って何?』と聞かれたら用意していっしょに遊び、外国に興味を示した時には世界地図を貼った」(小2)、「ロボット好きな長男につき合って夏休みはロボット三昧。虫好きな次男の誕生日は毎年虫取り。子どもの好きなことを家族でいっしょに楽しんだ」(小6・小4)。子どものやりたいことを応援し、環境を作り、親もとことん楽しむことで、子どもの興味の芽は育まれ、自然と知識や世界が広がっていきます。子どもにはそれぞれに可能性があると信じています」だからこそ子どものやる気を引き出し、その気持ちを学ぶ楽しさに変えて、限界を決めずに伸びるだけ伸ばしてあげたい。そして公文で積み重ねた努力、身につけた力が、いつかやりたいことを見つけたときの後押しになるようにと願っています。「学校の先生になりたい」「獣医さんになりたい」「アイドルになりたい」…子どもたちの夢はさまざま。自分の進むべき道を見つけ、しっかりと歩いていける力を培えるようにと、先生は一人ひとりを温かく見守っています。

#### その他連絡 **お休みの時は電話でもメールでも結構ですので連絡をお願いします。**

**4月分の会費引き落としは3月28日です。よろしくお願ひいたします。**

**(注)途中退会の場合は、引き落としの関係から月末15日までにお申し付けください。**